Hiramatsu Reiji 2024

Grand Opening!

GALLERY SAKURANOKI
GINZA

Hiramatsu Reiji 2024

第一回印象派展（1874）から150年、によせて。
現代を生きる、日本画家からの返歌

Grand Opening!

GALLERY SAKURANOKI GINZA

印象派誕生150年記念

平松礼二展

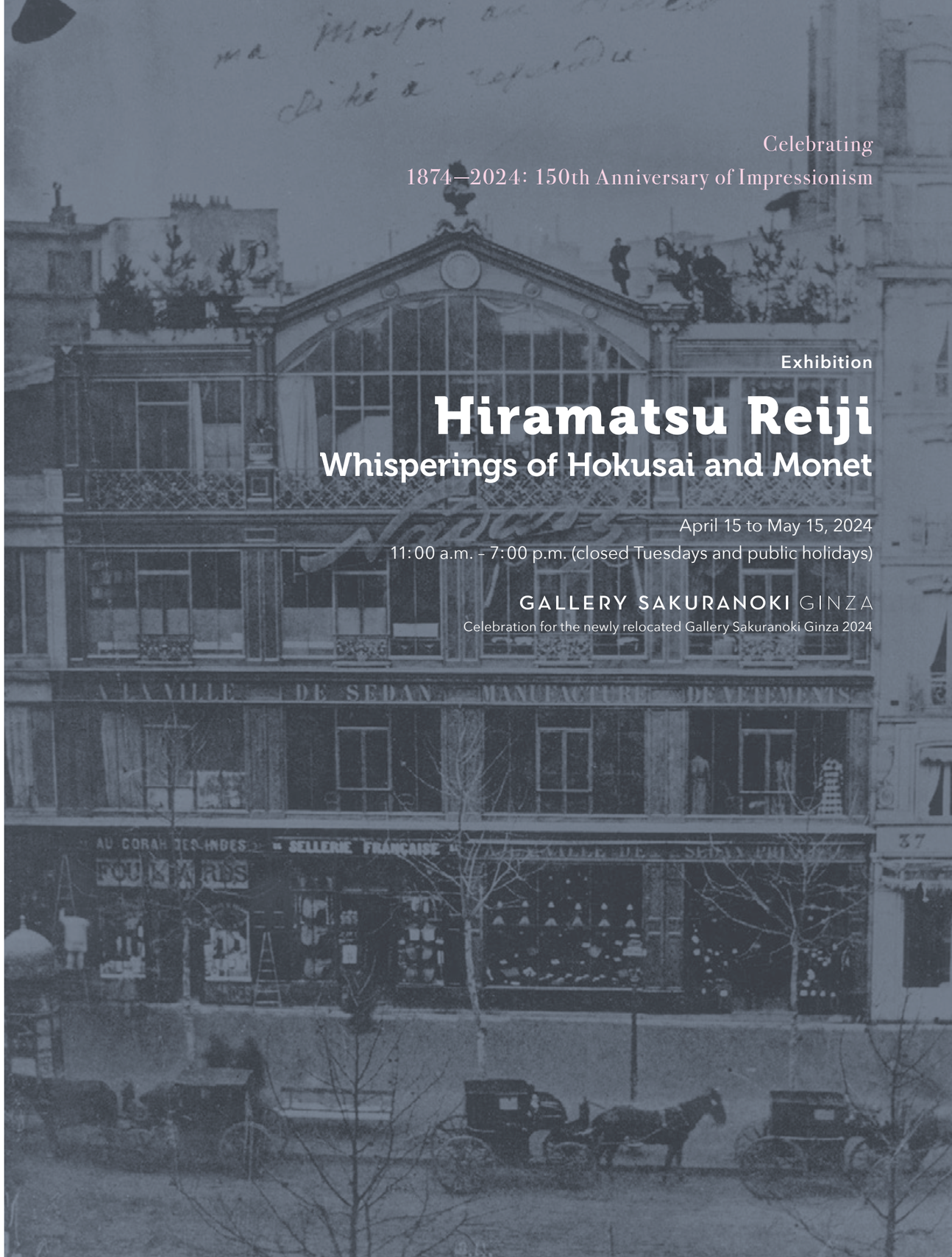
北斎やモネの囁きが聴こえる

2024年4月15日（月）－5月15日（水）
火祝休廊　11時－19時　※最終日5月15日（水）　16時まで

ギャラリー桜の木 銀座

2024 移転・グランドオープン第一弾企画

1874年4月15日－5月15日
第一回印象派展の会場外観
© archives charmet / bridgman images



Celebrating
1874—2024: 150th Anniversary of Impressionism

Exhibition

Hiramatsu Reiji

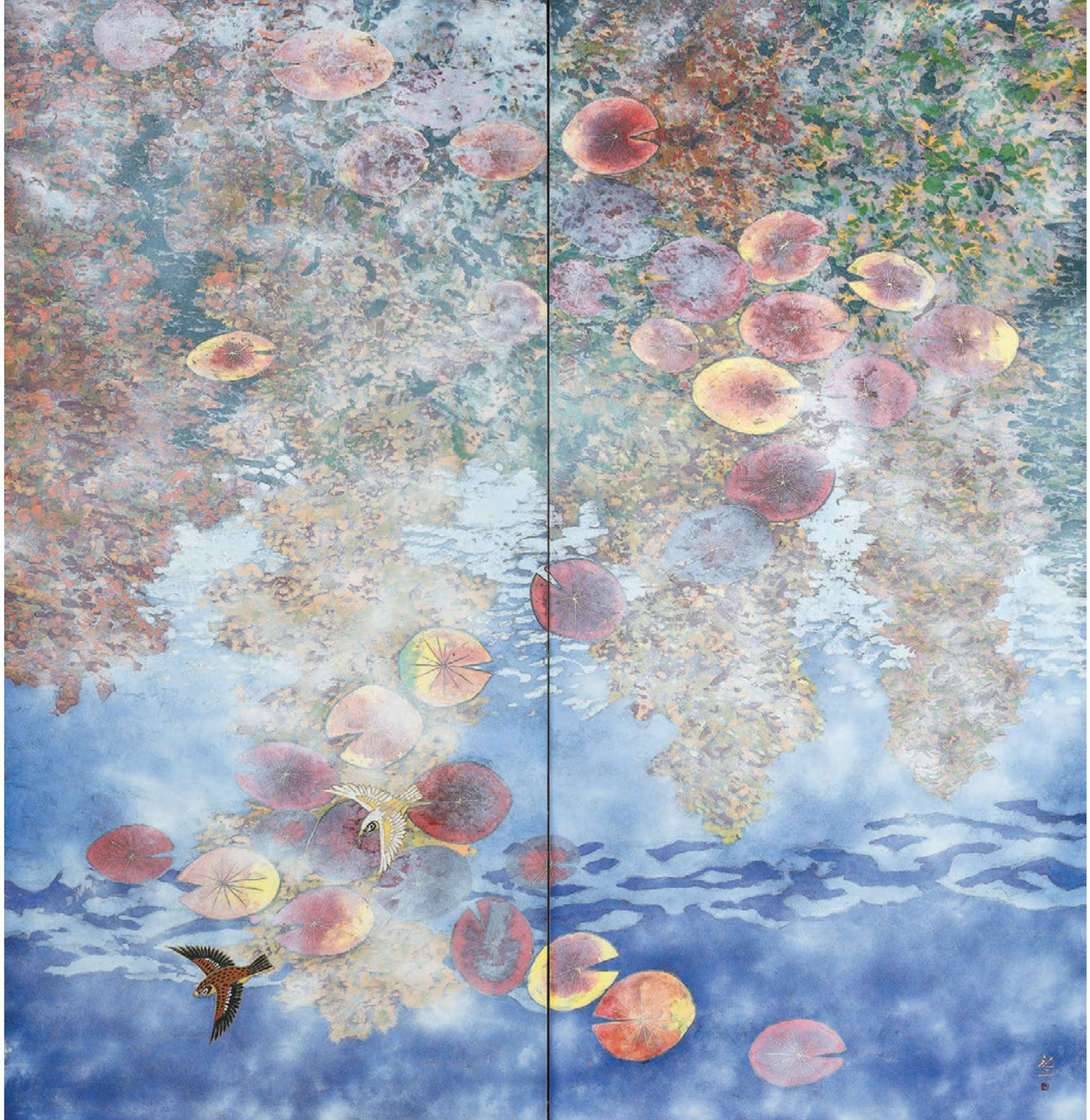
Whisperings of Hokusai and Monet

April 15 to May 15, 2024
11:00 a.m. - 7:00 p.m. (closed Tuesdays and public holidays)

GALLERY SAKURANOKI GINZA
Celebration for the newly relocated Gallery Sakuranoki Ginza 2024

1
日本の山河

二曲一隻屏風
日本画 紙本　縦170.0×横160.0cm
2024年



2
フランス ジヴェルニー・
晩秋の池

二曲一隻屏風
日本画 紙本　縦170.0×横160.0㎝
2024年

3
池にホクサイの雲

日本画 絹本
P40号　縦72.7×横100.0㎝
2024年

4
海辺の桜図

日本画 絹本
F40号　縦80.3×横100.0cm
2024年

5
おみなえしの頃

日本画 紙本
P30号　縦65.2×横90.9㎝
2024年

6
池の秋彩

日本画 紙本
P30号　縦65.2×横90.9㎝
2024年

7
エトルタの印象

日本画 絹本
S30号　縦90.9×横90.9㎝
2024年

8
ノルマンディーの草宴

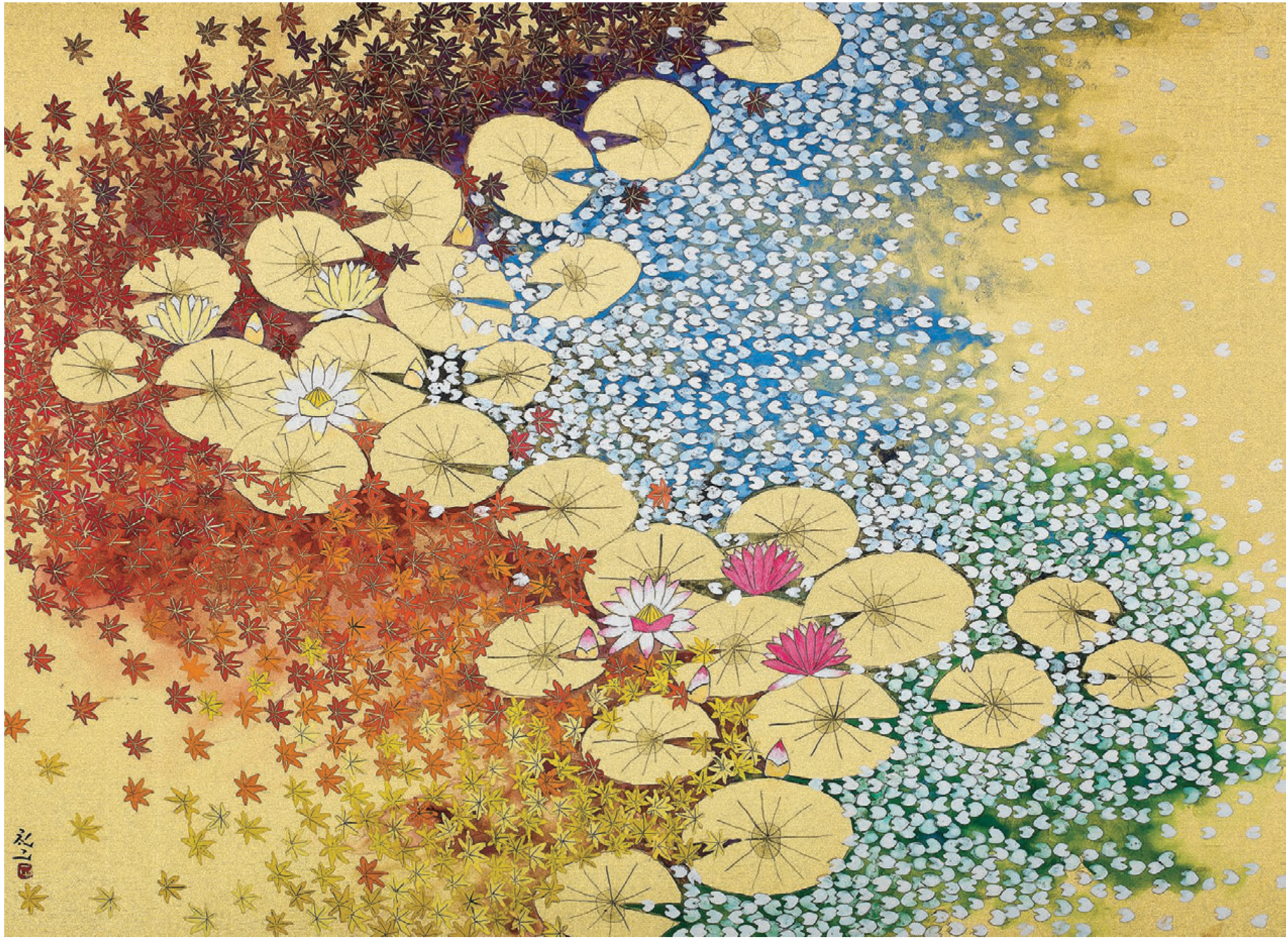
日本画 絹本
P30号　縦90.9×横65.2㎝
2024年

9
早春図

日本画 紙本
P30号　縦65.2×横90.9㎝
2024年

10
モネの橋にて

日本画 絹本
P30号　縦65.2×横90.9㎝
2024年



11
すいれん図春秋

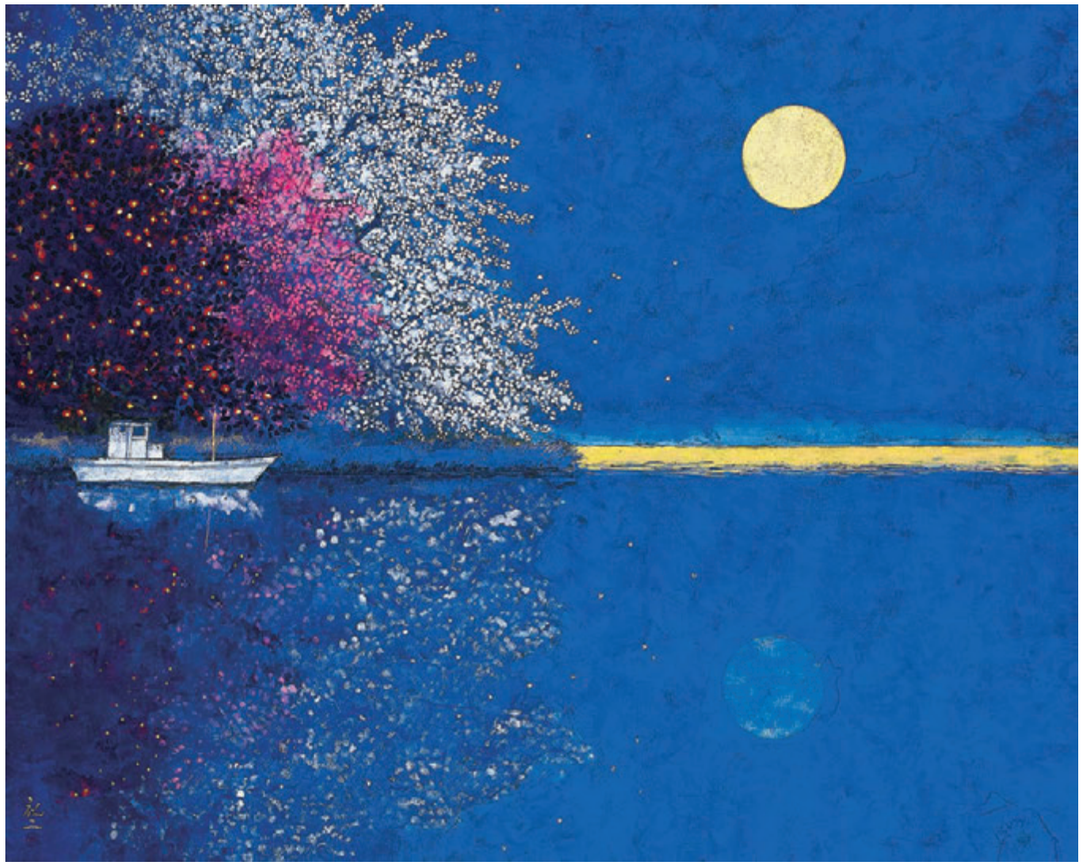
日本画 絹本
P40号　縦72.7×横100.0㎝
2024年

12
夢睡蓮図

日本画 紙本
S30号　縦90.9×横90.9㎝
2024年

13
鯛図

日本画 紙本　F30号　縦72.7×横90.9㎝
2024年

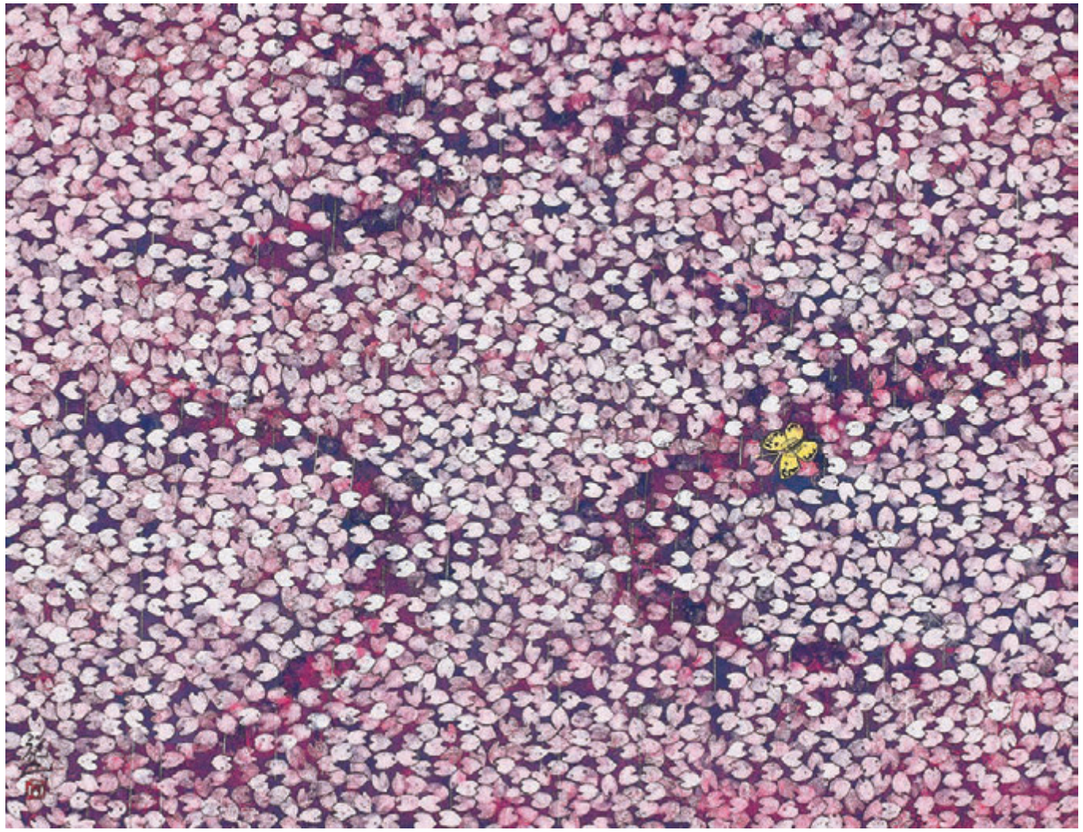


14
さくらの頃

日本画 紙本　F30号　縦72.7×横90.9㎝
2024年

15
ひなげしとデージー

日本画 絹本　P15号　縦50.0×横65.2㎝
2024年



16
さくら雨

日本画 紙本　P15号　縦50.0×横65.2㎝
2024年

17
あしたの日本

日本画 紙本　P15号　縦50.0×横65.2cm
2024年

18
ノルマンディ セーヌ河畔

日本画 絹本　P15号　縦50.0×横65.2cm
2024年

19
ジヴェルニー モネの池－春

日本画 絹本
F30号　縦72.7×横90.9㎝
2024年

20
ジヴェルニー モネの池－秋

日本画 絹本
P20号　縦53.0×横72.7㎝
2024年

ごあいさつ

私は若いころアジアへの旅をはじめた。

韓国、中国、インド、ベトナムなど日本文化・美術のルーツを探る旅だった。取材の度にアジアへの憧憬は益々募り私の生涯はアジアで終るだろうと予想していた。

50才になった頃、旅の記録を日本文化の融合をモティーフにして銀座の画廊で個展を開いた。そのとき全く予想外の意見を画廊主から聞いた。突然“平松さんの作品は西洋向きだよ”と。ポカンとしていたら画廊主は矢継ぎ早にパリでやってみようと会場の名を口にした。JAL（日本航空）の画廊だった。

じゃあ一度だけやってみるかとその話に乗って、はじめてのヨーロッパへ向かった。

オープニングパーティはフランス人、日本人（在留の方）と賑やかで、ついついはじめてのワインを痛飲してしまった。

案の定翌日は二日酔いでフラフラに。妻と二人で公園を散歩。目の前には大きな美術館がありブラッと立ち寄ってみた。巨大な作品（長さ90mもある）が目に入った。これが教科書で見たモネの睡蓮かと。

この作品が私の前途に大きく係わることになるとは夢にも思わなかった。目を凝らすと画面に人物像はなく、季節や時間、光があり、水や空、雲がある。中心のモティーフは睡蓮だ。

私は直感的に、日本画の花鳥画の空気感を感じた。

なぜだろう。私は東京に戻り、勤務していた大学の図書館で印象派とモネについて学んだ。これが世に言うジャポニスムかと。それからこの源流を探すことを決めフランス通いが始まった。そして多くのスケッチが手元に残った。

人の助けもあって、フランス学士院の方々やモネ財団の方々、そしてノルマンディ ジヴェルニー村にあるジヴェルニー印象派美術館館長のディエゴ・カンディール氏に出会った。

私の研究目的をよく理解してくださったカンディール館長は、2011年にアメリカ シカゴのテラ財団エリザベス館長と鎌倉のアトリエを訪問してくださり、名古屋市美術館で開かれた私の個展にも足を運んでくださった。その夜夕食会が開かれ、2013年のジヴェルニー印象派美術館での平松礼二展開催を告げられた。それ以来同館やモネ財団とは特別に親しくして頂き、日本大使館の応援もあり、2018年には日仏修交通商通条約締結160周年記念事業として2回目の個展、そして、今回2024年に印象派誕生150年記念として3回目の個展を迎える。出品した作品は全て購入頂き今は主要コレクション（90点）となった。

途中で与えられた、美術史家（元多摩美術大学学長）の辻惟雄先生のひとことで私は自身の仕事に覚醒した。「平松さん、日本美の特質は“かざり”と“遊び”だよ」だから、モネを中心とした画家たちの美術運動『ジャポニスム』に惹かれたのだと。

私は今、洋の東西を往来し複眼で見つつ作品を描いている。そしてこの長い旅はまだまだ続きそうだ。

ギャラリー桜の木さんとは3回目の転居記念展覧会※となる。画廊はだんだん日本の中心地に近づいてゆく。スタッフの方々も高邁な努力で高い理想に近づいてゆく。

私も一段ギアを入れ共に励んでゆきたいと願っています。

2024年3月

平松礼二

※ギャラリー桜の木は創立1985年、創業者・岩関和子が渋谷区のマンションの一室から「家庭にこそ一流の絵画を」をモットーにスタートした。
平松礼二氏の作品にみなぎる前進力、作品世界の奥底にある慈愛のまなざしに焦がれ、渋谷区幡ヶ谷に新たな画廊空間創設時（1996）、銀座五丁目壹番館に移転時（1998）、今回銀座四丁目に移転（2024）の三度、開廊記念展としての平松礼二展を開催している。

パリ2024オリンピックと、印象派150年記念の年

平松礼二展『睡蓮交響曲』

フランス・ジヴェルニー印象派美術館にて開催

会期 ： 2024年7月12日（金）－11月3日（日）

平松礼二 睡蓮交響曲

2013年、ジヴェルニー印象派美術館は、平松礼二の芸術に特化した大規模な展覧会を開催した。それは多くの来場者にとって発見であった。それ以来、彼の作品に対するフランス国民の関心が衰えることはない。

平松の芸術は特異で、異質で、近くて遠い。平松の絵やドローイングが、ジヴェルニーの印象派やクロード・モネ（1840-1926）を彷彿とさせる親しみやすいものだからだ。1994年、平松はパリのオランジュリー美術館のグランド・デコラシオン（※モネが70歳で挑んだ大作）を発見し、日本画の技法を習得した平松は、古くからの伝統を応用して印象派の主題: ジヴェルニー、睡蓮の池、そしてノルマンディーの海岸、を描き写した。

「私はいつもジヴェルニーの夢を見ています」と平松は言う。このこだわりは、今やモネの故郷となったこのノルマンディーの小さな村への最も美しい賛辞である。

平松礼二の芸術を呼び起こすことは、池の中の一滴の水を定義しようとするようなもので、それぞれの作品に内在する美を貫くことは不可能であるかのようだ。平松は、クロード・モネの家の池に魅せられ、四季折々の色とりどりの池の反射を思い起こさせる。彼はまた、ポプラやシダレヤナギ、睡蓮のきらめくような色彩にも関心を寄せている。

つくりだされた画面からは、オランジュリーの睡蓮のように、広い面積を見渡すことができる。遠近法の欠如、単純化された形態、植物の細部、ある種の正面性など、モネの手法のいくつかは、彼自身の創作にインスピレーションを与えている。

印象派美術館は、平松礼二展の後、平松の絵画とデッサン、デッサン、ノート、創作資料で構成されたコレクションを収蔵した。10点の屏風、22点のパネル、1点の版画、2冊の画集、25点の独立した素描など、本展のまえに合計74点の作品が保存されている。

平松の独特な作風は魅惑的である。彼の優れた表現力と飽和した色彩の趣味は、日本の伝統の中心から引き出されたインスピレーションと融合している。浮世絵版画、屏風、円窓の間にある平松の提案の幅は、彼独自の才能を明らかにしている。彼のたゆまぬ美への探求は、クロード・モネから学んだ最も美しい教えである、自然を前にした静けさへの呼びかけと結びついている。

2024年夏に開催される「睡蓮交響曲」展では、ジヴェルニー印象派美術館が最近購入した14点の新作が、睡蓮の池を中心に、季節のサイクルをテーマに展示される。

キュレーター：シリル・シアマ　ジヴェルニー印象派美術館館長、文化遺産主任学芸員

※この展覧会は、ノルマンディー印象派2024記念事業の一環として開催されます。

©www.mdig.fr

平松礼二画伯ご夫妻　軽井沢アトリエの庭にて　撮影：齋梧伸一郎

平松礼二 Hiramatsu Reiji

1941年　東京都生まれ、5歳で愛知県に転居
1961年　愛知県立旭丘高等学校美術課程卒業
1965年　愛知大学卒業
1977年　創画展創画会賞、春季展賞受賞
1989年　第10回山種美術館賞大賞受賞
1994年　多摩美術大学造形表現学部教授就任（～2005年）
2000年　「文藝春秋」1月号より表紙画担当（～2010年12月号まで）
　　第12回ＭＯＡ岡田茂吉賞大賞受賞
2006年　町立湯河原美術館に平松礼二館が開館
2011年　名古屋市美術館にて「画業50年の軌跡 平松礼二展」開催
2013年　フランス公立ジヴェルニー印象派美術館にて「平松礼二 睡蓮の池 モネへのオマージュ」展開催
　　日曜美術館（ＮＨＫ）にて「命めぐる睡蓮の庭 平松礼二 モネとの対話」放映
2014年　ドイツ・ベルリン国立アジア美術館にて「平松礼二 睡蓮画 モネへのオマージュ」展開催
2015年　「尾形光琳300年忌記念特別展　燕子花と紅白梅 光琳アート 光琳と現代美術」（ＭＯＡ美術館）に出品
2017年　箱根 芦ノ湖 成川美術館にて「平松礼二～世界を魅了するジャポニスム～」展開催
2018年　日仏修好通商条約締結160周年記念事業である“ジャポニスム2018”のフランス側企画の一環として、
　　フランス公立ジヴェルニー印象派美術館にて「平松礼二 イン ジヴェルニー」展開催
2021年　フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエ受章
2024年　全長90mの14点からなる屏風連作『睡蓮交響曲』がフランス公立ジヴェルニー印象派美術館に収蔵
　　フランス公立ジヴェルニー印象派美術館にて、印象派誕生150年記念「平松礼二 － 睡蓮交響曲」展開催

現在 無所属
一般社団法人日本美術家連盟 委員
公益財団法人美術文化振興会 評議員
順天堂大学 国際教養学部 客員教授
町立湯河原美術館 名誉館長
愛知大学 名誉博士

【主な収蔵先】
公立ジヴェルニー印象派美術館（仏）、東京都現代美術館、箱根芦ノ湖 成川美術館、山種美術館、MOA美術館、町立湯河原美術館、在仏日本国大使館公邸、OECD日本政府代表部　他多数

主催者ごあいさつ

150年前のこの日、後に第一回印象派展と呼ばれるグループ展（1874年4月15日−5月15日 パリ、カピュシーヌ通りの写真家ナダールのアトリエにて）が開かれました。

保守を極める美術アカデミーに対抗し、画家たちが自ら熾した芸術運動のはじまりです。

開催当時は「画家、彫刻家、版画家などによる共同出資会社の第一回展」が正式タイトルでした。初日から10日後の新聞に掲載された批評家による酷評記事中、揶揄のために用いられた“印象”ということばが「印象派」誕生のきっかけとなった、というストーリーはあまりにも有名です。

この春、ギャラリー桜の木銀座は、25年来多くのかたがたに親しんでいただいた銀座五丁目壹番館ビルから四丁目へ移転、あらたな空間にてスタートいたします。

このたび、そのグランドオープン第一弾企画として『印象派誕生150年記念 平松礼二展』を、150年前と同じ日程で、開催させていただく運びとなりました。

日本画家である平松礼二氏が、日本美を印象派の画家たちの眼から発見する「印象派・ジャポニスムシリーズ」を開始、多くの日本人の心に新たな熱をともしたのは1999年のことでした。その後2013年に印象派の故郷・フランスで、モネが生涯を注いだ庭に隣接する公立ジヴェルニー印象派美術館の求めにより開催された「平松礼二展」は、国際的に大きな反響を呼び、数々の記録をうち立てます。

その後フランス政府の要請に応えて、2018年にも日仏修交通商条約締結160周年記念事業の一環として開催。その功績から2021年フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエを受勲。そして、計3度目の個展が、今夏オリンピック・パラリンピックで沸くフランスにて、同じく印象派誕生150年を記念して開催されます。この10年余でジヴェルニー印象派美術館は大型作品を中心に、同館の主要コレクションとして平松礼二作品88点を購入。今後フランス国に永く庇護され、世界へ発信されてゆく、一大コレクションが形成されています。

平松礼二氏の芸術が世界を照らす年に、その壮行会として。

新たな画廊空間が、現代のつくり手たちの芸術を育む場となるように願いを込めて。

28年来ご紹介してまいりましたなかで初めての大作中心の個展、2024年の平松礼二展を、この“出発”の時にご高覧いただけましたら幸甚に存じます。

ギャラリー桜の木

印象派誕生150年記念 平松礼二展2024

2024年3月31日発行

編集：株式会社ギャラリー桜の木
著者: 平松礼二
発行：株式会社ギャラリー桜の木
装丁デザイン：株式会社藤原デザイン事務所
タイトル和英翻訳：リン・リッグス（有限会社人文社会科学翻訳センター）

©2024平松礼二／株式会社ギャラリー桜の木　東京都中央区銀座4-3-6 ,7F
本書の全部または一部を転載することを禁じます

表紙の作品
表の作品：「日本の山河」日本画 紙本 二曲一隻屏風　170×160cm

問い合わせ先：株式会社ギャラリー桜の木

Tel. 03-6228-6646　Fax. 03-6228-6750

www.sakuranoki.co.jp